

## 研究結果報告書

### 日中戦争における中、日両国による宣伝ビラの収集と研究

所属：復旦大学 国際文化交流学院

役職：教授

氏名：許金生

近代戦争は総力戦であり、「鉄」・「金」・「紙」の戦争と言われている。「紙」は宣伝戦のことを意味するが、その手段はさまざまであり、ビラはその一つである。日中戦争期において、ビラによる宣伝戦も行われたので、その解明は戦争中の宣伝戦・思想戦の実態を把握する鍵の一つであると思われる。しかしながら、この角度からの体系的な研究は、日本でも中国でもほぼ空白状態に近い。これはビラの実物の収集という基礎作業でさえ行われていないことに起因するのではないかと思うので、「日中戦争における中、日両国による宣伝ビラの収集と研究」をテーマとして、まず日本では外務省外交資料館、防衛庁防衛研究所、東京大学、立命館大学などを、中国では上海市、山東省、江蘇省にある関係檔案館を中心に、各機関や大学に所蔵されている日中戦争期において中国戦場で撒布されたビラの実物を調査・収集してきた。その結果、中国戦場で撒布されたものだけではなく、東南アジア戦場でのものも数多く見つかった。

そして、以上の作業をベースとして、先行研究を踏まえて、戦争中の中日双方の宣伝主体・方針・政策を究明した上で、ビラに対する分析により、その宣伝対象・対象別による宣伝内容及び目的を検討し、ビラの種類・表現形式・撒布手段・撒布規模及びその宣伝効果の解明に努めていた。それにより次の事実を把握している。

その他の宣伝手段より、ビラは圧倒的優勢を保っているため、日中戦争勃発直後から、日本側は日本軍を、中国側は国民政府と国民党の関係機関・共産党の軍隊を中心に、それぞれの宣伝方針・政策に基づいて、ビラによる宣伝戦を大規模に全面展開した。日本側の宣伝対象は中国軍隊・民衆であるのに対して、中国側は日本軍・偽軍・民衆などであったので、双方とも宣伝対象によって異なる宣伝戦略を採り、宣伝内容を巧みに取捨することに力を入れた。また、宣伝効果を高めるため、漫画型・書簡型・通行証型・詩歌型・紙幣型など多様な形式を使用し、あらゆる撒布手段を講じていたが、特に中国共産党の方は宣伝手段を巧妙に活用し、優れた宣伝効果を収めた。

以上の研究成果をまとめて出版されたものが、『無声的炸彈——伝単上の抗日戦争』（復旦大学出版社、2017年）である。これからも、ビラの収集を続けると同時に、中国での日本軍による宣伝戦の全貌解明を研究視野に入れるだけでなく、マライ戦場でのビラ作戦を究明しようと思う。

#### 研究成果の公表について

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

書籍（題名・著者名・出版社・発行時期等）

『無声的炸彈——伝単上の抗日戦争』復旦大学出版社、2017年